

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○3月24日～

先週は日米で金融政策の発表がありましたが日本も米国も金利据え置きとなり、大きな混乱にはなりませんでした。

米国の関税の影響が4月以降出てくるとされるため今後も経済指標を見ながら、米国の政策の影響を見極める状況が続きそうです。

4月2日までに相互関税については各国が米国と交渉する形になっていますが国によって関税率や品目も変わってくるため個別にニュースを見ておく必要があります。

日本は次回6月に利上げをするかどうかポイントになってきます。

おそらく年内に2回程度の利上げが予想されているため、夏に利上げを行う可能性は高まっています。

逆に考えると、しばらく利上げはないということで、再び円安方向へ相場が動き出す可能性もあるということです。

年明けから円高トレンドが続いているので、このあたりで流れが変わってくるかもしれません。

3月末から4月初めにかけては日本株上昇、円安という動きが出る年も多いため「彼岸底」という言葉が株のトレーダーには知られています。

今年はどうなるかわかりませんが株安と円高が2月、3月と続いているため、一旦の反発は考えておいた方がよさそうです。

米国もトランプ政権の政策がどうなるのか予測が難しいことからFRBは身動きが取りにくい状況になっています。

今後、経済指標や雇用情勢が大きく変わってこない限り、しばらくは様子見が続くかもしれません。

そして、ウクライナとガザの問題も泥沼化してきており、停戦がいつになるのか不透明です。

地政学リスクが高まっていることで金(ゴールド)だけは上昇が続いています。

2月、3月は債券やユーロがドルに対して上昇してきていますが、今まで強かったドルが欧州通貨や円に対して中長期的に弱くなっていく可能性もあります。

金(ゴールド)はドルと反対の動きをすることが多いため、金(ゴールド)の上昇が続き、ドル安の動きになってくるかもしれません。

米国の動きが見えないだけに米国株やドルに対して安心して投資できないと投資家が判断すれば、今までのドル高、米国株高の動きに変化が出てくるというシナリオも想定しておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル/円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は148 円台では底堅く推移し、150 円を超えるところまで値を伸ばしました。
先週終値でも149円台を維持していることから、先週安値の148円あたりを維持できれば上昇していく可能性が出てきました。

下値は148 円を割り込むと147 円台前半までの下げは想定しておきたいです。

147 円台を維持できれば、再び上昇に転じる可能性があるため動きをしっかりと見極めたいです。

再び146. 5円を割り込むような動きが出れば、円高リスクが再燃するため注意がいります。

上値は150. 2円を超えると3 月初めの高値151. 3円あたりが視野に入ってきます。

ここも超えてくると152円台まで上昇していきそうです。

週足も陽線に変わってきているため今週は上昇を期待して買いのチャンスを狙ってみたいです。

下値は148 円を割り込むと147 円台前半までの下げは想定しておきたいです。

147 円台を維持できれば、再び上昇に転じる可能性があるため動きをしっかりと見極めたいです。

<気になるクロス円>

クロス円はトレンドがはっきりしない動きになっています。

ユーロやポンドは1 カ月ほど上昇していましたが上値が重くなってくると反落リスクが高まります。

トルコリラは先週ドルに対して大きく下落し、リラ／円も3 円台まで急落しました。

エルドアン大統領が政敵のイマモール・イスタンブール市長を拘束したというニュースが原因です。

トルコも政治不安が続けば、リラの低迷につながるため、取引する場合は注意がいります。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、3月東京都都区消費者物価指数の発表があります。

米国では3月製造業・サービス部門・総合PMI(速報値)、1月ケース・シラー米住宅価格指数、2月新築住宅販売件数、3月消費者信頼感指数、3月リッチモンド連銀製造業指数、2月耐久財受注、10－12 月期 GDP(確定値)、前週分新規失業保険申請件数、2月住宅販売保留指数、2月個人消費支出(PCEデフレーター)、3月ミシガン大学消費者信頼感指数などが発表されます。

欧州ではドイツとユーロ圏で3月製造業・サービス業PMI(速報値)、ドイツで3月IFO企業景況感指数などがあります。

ほかには、英国で2 月消費者物価指数、10－12 月期GDP、2月小売売上高、カナダで1 月 GDP の発表などがあります。